

震災復興室だより⑫

平成28年10月25日
東北農政局
震災復興室

復興への道しるべ①：被災12市町村の動き（8～9月期）

川俣町

【新たな施設園芸】 9月15日、川俣町小島地区公民館において、川俣町に「新たな施設園芸（ポリエチレン培地を活用した花卉（アンスリウム）栽培）」を導入し農業再生を図ることを目的とした打合せが同町産業課の主催で町内生産者とJAふくしま未来が参集し開催されました。打合せには、川俣町小島地区でポリエチレン培地を活用した作物の試験栽培を行なっている近畿大学の教授2名も出席し、参集した生産者と活発な意見交換が行なわれました。



楢葉町

【三人四脚】 9月1日、復興庁・双葉農業普及所・楢葉町役場及び震災復興室の担当者が参集し、意見交換を行いました。冒頭、楢葉町から、①営農再開ビジョンを策定するためのコンサルタント活用、②一般家庭の庭や公共の花壇でのイノシシ被害の状況、③畜産再開の進捗状況等についての報告と、④「原子力被災12市町村農業者支援事業（以下、「個別支援事業」という。）」の具体的な内容について質問がありました。震災復興室からは個別支援事業の概要を説明し、双葉農業普及所からは、「9月中旬に個別支援事業について市町村への聞き取りを実施し、具体的要件等を整理したい。」等の補足説明がありました。また、復興庁から、「イノシシ被害の対応については、持ち帰り検討する。」との回答がありました。

※三人四脚は、復興庁を事務局に「国の関係機関」・「福島県の各部署」及び「市町村」の担当者が意見交換を行い、被災市町村の復興に取り組むことを目的に開催されます。

【震災後初の稲刈り】 9月27日、楢葉町北田地区の生産者が稲刈りを行いました。



町は昨年9月に避難指示が解除され、今春から営農再開の第一歩を踏み出しました。この生産者での米作り（約70haの水田に「天のつぶ」を作付け）は6年ぶりです。収穫した米は、全量全袋検査（※）を実施し安全を確認した上でJA等を通じて出荷されます。

なお、今回収穫された米は、東京でのイベントやふるさと納税の返礼品としても活用予定です。

※ 全量全袋検査は、福島県産の玄米すべてに対して、産地主体で実施されている放射性物質検査です。

南相馬市

【復興加速円卓会議】 9月2日、南相馬市の復興を加速させるため、住民代表者との意見交換の場として「第3回復興加速円卓会議」が開催されました。復興局、官民合同チーム、教育委員会などの報告と、震災復興室からは営農再開に向けた取組状況を報告しました。農業に関する意見として、①後継者がいない、②農地の大規模化・集約に関して、今後再開意向の無い農業者の手続きに係る経費負担の課題、③有効活用できる農業施設への支援、④大柿ダムの汚泥への不安、⑤後継者育成に向けた農業先進国等への留学の実施等について意見がありました。

【大柿ダムの用水供給】 9月30日、南相馬市小高区浮舟文化会館において、平成29年4月から供給を再開するため通水における課題及び対応方針について、関係機関（福島県、南相馬市、土地改良区及び東北農政局）による「大柿ダムからの用水供給再開に係る関係機関打合せ」が行われました。東北農政局南相馬地域直轄災害復旧事務所から、工事の進捗状況の説明を受け、①用水供給再開に向けた課題と対応方針、②水管管理、用水路等の維持管理に関する課題と対応方針、③農家及び南相馬市民に向けた情報発信等について意見交換が行われました。小高区の農業用水を必要とする農業者に確実に供給できるよう、今後も意見交換を行っていく予定です。

富岡町

【復興組合代表者会議】 8月10日、「富岡町農業復興組合第2回役員・ブロック代表者会議」が郡山事務所で開催され、役員・ブロック代表12名が出席しました。協議では、除染農地の引き渡し状況の説明後、各ブロックにおける作業状況及び問題点等について意見交換を行い、農地保全管理事業について中間的な総括（課題と問題点等の整理）がされました。

【農業者との意見交換】 農業者と町の意見交換が8月21日にいわき市で、28日には郡山市で開催されました。町から農業復興実施計画（農業アクションプラン）の策定に向けた検討の進捗についての説明があり、その後、農業者との意見交換が行われました。農業者からは、営農再開に向けた支援や今後の農業復興に関する活発な意見が出されました。

※ 農業復興実施計画（農業アクションプラン）は、富岡町で営農再開や新規就農を目指す方に
対して、農業復興の基本方針や具体的取り組みを示す計画で、本年中に策定する予定です。

葛尾村

【北里大学教授来村】 9月1日、福島相双官民合同チームからの紹介を受け、北里大学の萬田富治教授が来村しました。葛尾村の畜産業の現状と将来の方向性等について松本村長と意見交換を行い、その後、飼料作物（デントコーン）の生育状況や長期間使われていない農業機械や牛舎、仮置き場等の現状把握を行いました。



【水稻部会打合せ】 9月2日、葛尾村役場において水稻部会が開催されました。打ち合わせでは、①28年産米の稻刈りや乾燥・調整、全量全袋検査場までの運搬方法等について検討するとともに、②29年産米の作付け準備について、種子の申込みや苗の入手方法等のほか、これまでの実証栽培から通常栽培（本格的な営農再開）になる旨の説明が村担当者からありました。

【三人四脚】 9月7日、葛尾村役場において復興庁や福島県、葛尾村役場等の担当者が参集し、避難指示解除後における住民生活や地域振興、学校教育や帰還促進等の現状と課題について情報共有と意見交換を行いました。三人四脚は、今後も定期的に会合を開き、葛尾村の復興に向け関係機関が連携して支援していくこととしています。※三人四脚は、1ページの楳葉町の欄を参照。

【畜産クラスター】 9月8日、葛尾村役場において、葛尾村畜産クラスター協議会設立に向けた打ち合わせを行いました。畜産クラスターの協議会規約や計画等の素案について検討し、肉用牛や繁殖牛・酪農経営における村として優先的に育成していく中心的な経営体について、村担当者から説明を受けました。今後、クラスター協議会の設立に向けた準備を進めています。

【ハンズオン事業】 9月13日、葛尾村役場において、復興庁から委託を受けた民間のコンサルタント会社が村と生産者の意向を把握し、復興を支援する関係機関との連携手法について村担当者と打ち合わせを行いました。当日は、村として優先的に育成していく中心的な経営体の現状と課題を整理し、今後の具体的な支援策や方向性について検討を行いました。

※ ハンズオン事業（復興庁補助事業）は、被災自治体が地域課題の解決に向けた新たな取組に挑戦する際に、ノウハウやアイディア面でのサポートを行うものです。

田
村
市

【営農再開打ち合わせ】 8月24日及び9月14日に、田村市都路町において福島県田村農業普及所、田村市、JA福島さくら等の各担当者が参集し都路町の営農再開に向けた打ち合わせを行いました。打ち合わせでは、①ふくしま地域産業6次化イノベーターバンク活用事業（※）による、都路町の6次産業化に向けた勉強会の開催、②認定農業者訪問活動（訪問活動の結果等）、③基盤整備事業等の推進にあわせた集落営農の検討状況等について報告及び協議がありました。

※ふくしま地域産業6次化イノベーターバンク活用事業は、専門家を派遣し、商品開発や販路戦略等の再構築支援を行います。

浪
江
町

【地域農業再生協議会総会】 8月25日、浪江町役場本庁舎で開催され、会長（副町長）から、「今年4月から浪江町産業振興課は役場本庁舎に戻って業務を再開している。課題は多いものの、町の農業再生に向けて皆様のご協力をお願いする。」との挨拶があり、その後、議案が審議、可決され、最後に「浪江町農業再生プログラム実施状況報告（平成29年3月の帰還開始に向けて）」の説明が事務局よりなされ、農業再生に向けての課題等について意見交換が行われました。

飯
館
村

【復興加速円卓会議】 9月21日、「第2回飯館村復興加速円卓会議」が、飯館村における将来の村づくりを円滑に進めるため、各分野の代表者と課題解決に向けた意見交換を目的に開催されました。会議では、内閣府や文部科学省から第1回円卓会議で出された意見に対する国の対応状況が説明され、意見交換が行われました。農業関係では、①河川の土砂が除去されず牧草・畠畔に土砂が流入・堆積している。②畠畔を除草しても処分できない。③農地だけではなく畠畔の除染も必要等、具体的な意見要望が出されました。これに対して内閣府現地対策本部からは「既存の縦割りの各省予算では十分な対応が難しい問題であり、環境省、復興庁、農林水産省とも連携して知恵を出し、早急な解決に向け検討する必要がある」との回答がありました。

復興への道しるべ②：福島相双復興官民合同チーム正副チーム長市町村巡回

9月5日～29日（4日間）、各市町村長等と意見交換を行いました。その中の営農再開等に関する意見や要望について、ご紹介します。

田村市

- ・「原子力被災12市町村農業者支援事業」については、今後再開する農業者だけでなく、自己資金で既に再開している農業者も対象となるような事業にしてほしい。
- ・捕獲イノシシは個体が大きい場合、解体しないと処分先で受け入れてもらえない場合があり、解体作業が捕獲者の負担となっている。
- ・営農指導や経営指導をできる人材が不足しており、人材の育成が必要である。

南相馬市

- ・鳥獣害対策が、最大の課題の1つとなっていることから、イノシシ侵入の緩衝帯としての牛の放牧を検討。
- ・4分の3の補助の活用で進めることも有効であると思う。農家に管理だけの負担で100%費用負担なしとなるよう検討。
- ・飼料用米政策の継続が不透明。米生産の維持が最低限必要であることから、消費量を増やす取組が必要。
- ・ほ場整備については、畑作物が容易に作付できる田畠輪換が可能な農地としないと長続きしないと考える。

川俣町

- ・「原子力被災12市町村農業者支援事業」等の支援事業は、山木屋地区だけではなく町内全域で利用できるようにしてほしい。

広野町

- ・新規事業の「原子力被災12市町村農業者支援事業」をはじめとする、国の事業については、農業普及所等とよく連携をし農業者にとって実のある支援策となるよう進めていきたい。

檜葉町

- ・水稻作付面積については、今年20haを作付けし、29年度は40haを計画している。残りの水田面積300haは、仮置き場の解消等の問題があるため、今後、検討が必要である。

富岡町

- ・「原子力被災12市町村農業者支援事業」は、認定農業者等に限ることなく、営農意向のある農業者全てが使える支援事業としてほしい。

川内村

- ・補助事業で建設した既存施設に新たな設備投資が必要な場合、利用できる制度がない。
- ・ワイン用ブドウ栽培に取り組んでいるが、将来的にワイナリー事業も想定しており、人材確保が課題である。
- ・「原子力被災12市町村農業者支援事業」では、申請書類の作成が農業者個人の負担とならないよう、申請事務の簡素化を要望する。

大熊町

- ・イチゴの植物工場については、今後コンサルタント委託をして方向性を決めていきたい。農業の再開が厳しい状況の中、大熊町の再開に向けた一つの突破口としたい。

双葉町

- ・中野地区（避難指示解除準備区域）は、津波被害地域もあり、営農再開は厳しい状況である。
- ・避難先（県外）で営農再開している農業者へ、「福島県営農再開支援事業」と同様の支援策を新たに創設してほしい。

浪江町

- ・「被災12市町村農業者支援事業」については、個人で営農再開を希望する農業者が多いのでありがたい支援策であると考えており、町としても後押しをしたい。今後詳細が分かればお知らせ願う。

葛尾村

- ・営農再開においては、個人の農業者の負担が大きく諦めもあったが、「原子力被災12市町村農業者支援事業」創設により、今後の葛尾村の営農再開の気運が今まで以上に進んでいくのではないかと考えている。

飯館村

- ・村の事業（商工業）申請に対して県の採択事務処理が遅いことに対する改善をお願いする。（関連事項：上記の川内村の申請事務の簡素化を参照）

復興ミニ情報①

ふたばワールド2016

10月2日、秋晴れの下「ふたばワールド2016 inかつらお」が開催されました。復興・再生に向け奮闘している双葉地方市町村をはじめ、葛尾村商工会青年部、双葉地方復興商店街等のブースでは、様々な郷土料理や葛尾村伝統の手作り味噌を使った「手まめ汁」の大鍋料理のほか、葛尾BBQや葛尾村じゅうねん企業組合のじゅうねん団子等も振る舞われました。

ゆるキャラグランプリにエントリーしている葛尾村のイメージキャラクター、「しみちゃん」を応援するステージには、ふなっしーや双葉地方のゆるキャラが大勢駆けつけ、来場者に笑顔と元気を届けてくれました。

8月14日に行われた「第1回葛尾村盆踊り」にてイメージキャラクターしみちゃんのお披露目が行われました。

葛尾村 しみちゃん



葛尾村公式イメージキャラクター「しみちゃん」

8月14日に行われた「第1回葛尾村盆踊り」にて、イメージキャラクターしみちゃんのお披露目が行われました！子供たちからも大人気だったしみちゃんですが、実は現在「全国ゆるキャラグランプリ」に参加しております。つい最近まで福島県内最下位でしたが、先日の盆踊りでの呼び掛けもあって、現在、最下位を脱出してあります！！

今後もふたばワールド関連でのテレビ出演や、ふなっしーとの共演を予定しておりますので、引き続きしみちゃんの応援をよろしくお願いします。

そして、ゆるキャラグランプリで皆様の満き一票をお願いします。

※投票は以下から一日一票ずつ行なうことができます！

<http://www.yuru.jp/vote/detail.php?id=0003378>

復興ミニ情報②

あわせて被災市町村の地域振興と活性化、復旧・復興に向け地域に根ざした活動を展開しているキャラクターをご紹介します。



広野町
ひろぼー



田村市
カブトン、オリオンちゃん



富岡町
とみっぴー



檜葉町
ゆず太郎



南相馬市
のまたん



川俣町
小手姫様



浪江町
うけどん



双葉町
ふたばだるま



大熊町
おおちゃん
くうちゃん



川内村
モリタロウ

東北農政局震災復興室

〒970-8026 福島県いわき市平字堂根町4-11

TEL: 0246-23-8516 FAX: 0246-23-8512

発行責任者 東北農政局震災復興室 上崎博資